



2025年2月12日

各 位

会 社 名 **スター精密株式会社**
代 表 者 名 取締役社長 佐藤 衛
コード番号 7718 東証プライム
問い合わせ先 常務取締役 コーポレート本部長
佐藤 誠悟
TEL. 054-263-1111

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関するお知らせ

当社は、2025年2月12日開催の取締役会において、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する東京証券取引所の要請を踏まえ、現状分析・評価、改善に向けた方針を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 現状分析・評価

当社グループは、2022年2月9日に公表した中期経営計画において、当社グループの「2030年の目指す姿」に向けたロードマップを示しており、その実現に向け、第1次中期経営計画として2022年12月期から2024年12月期の3年間で「変革の土台作り」の期間と位置づけ推進してまいりました。また、同ロードマップに基づき、2025年12月期から2027年12月期を「変革の推進」と位置づけた第2次中期経営計画を本日（2025年2月12日）「第2次中期経営計画に関するお知らせ」として別途開示しておりますのでご覧ください。

そのような中、第1次中期経営計画の資本効率性(ROE)に関しては、主力の工作機械事業における回復の遅れなどから設定したKPIをわずかに下回り、結果としてPBRは1倍を下回る水準で推移しております。この要因として、資本効率の一層の向上が必要であることに加え、当社グループの成長性や資本政策に対する説明の不足から、市場の評価が十分に得られていないものと分析しております。

2. 対応方針

「2030年の目指す姿」とそれに向けた第2次中期経営計画の達成に向けては、中長期でのさらなるROE向上を図るとともに、成長戦略や事業リスク、戦略実行状況等の明瞭な説明によるPERの改善および資本コストの低減が必要と考え、以下の対応方針を策定しております。

- (1) 成長戦略の実行
- (2) 資本政策の推進
- (3) IR活動の強化およびコーポレート・ガバナンスの深化

内容の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

スター精密株式会社

<https://www.star-m.jp>

証券コード 7718

2025年2月12日

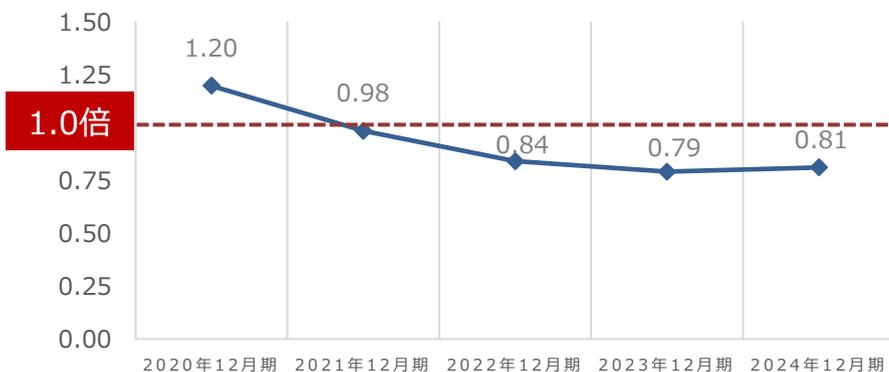
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

“PBR”の向上が経営上の重要課題

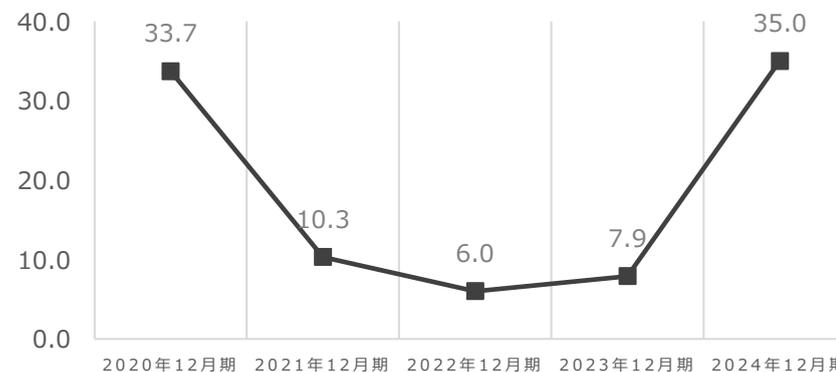
- PBR(期末日基準)は、2021年12月期以降 1 倍を下回る状況が継続(2024年12月期末時点 0.81倍)しており改善が急務
- CAPM算定上の株主資本コストは8%~9%程度を想定
- ROEの第1次中期経営計画目標は3期平均10%以上に設定もわずかに下回る(3期平均9.5%)
- PERは、2024年12月末時点ではプライム市場全体平均16.9倍※を上回るが、利益の減少による一時的なものという認識
- 企業価値向上を実現していくためには、ROEの向上と資本コストの低減が最重要な課題と認識

▶ **成長戦略の着実な実行によりROE向上を図るとともに、エクイティストーリー、事業リスク等の理解浸透による資本コスト(PER)の改善が必要**

PBR 5期推移

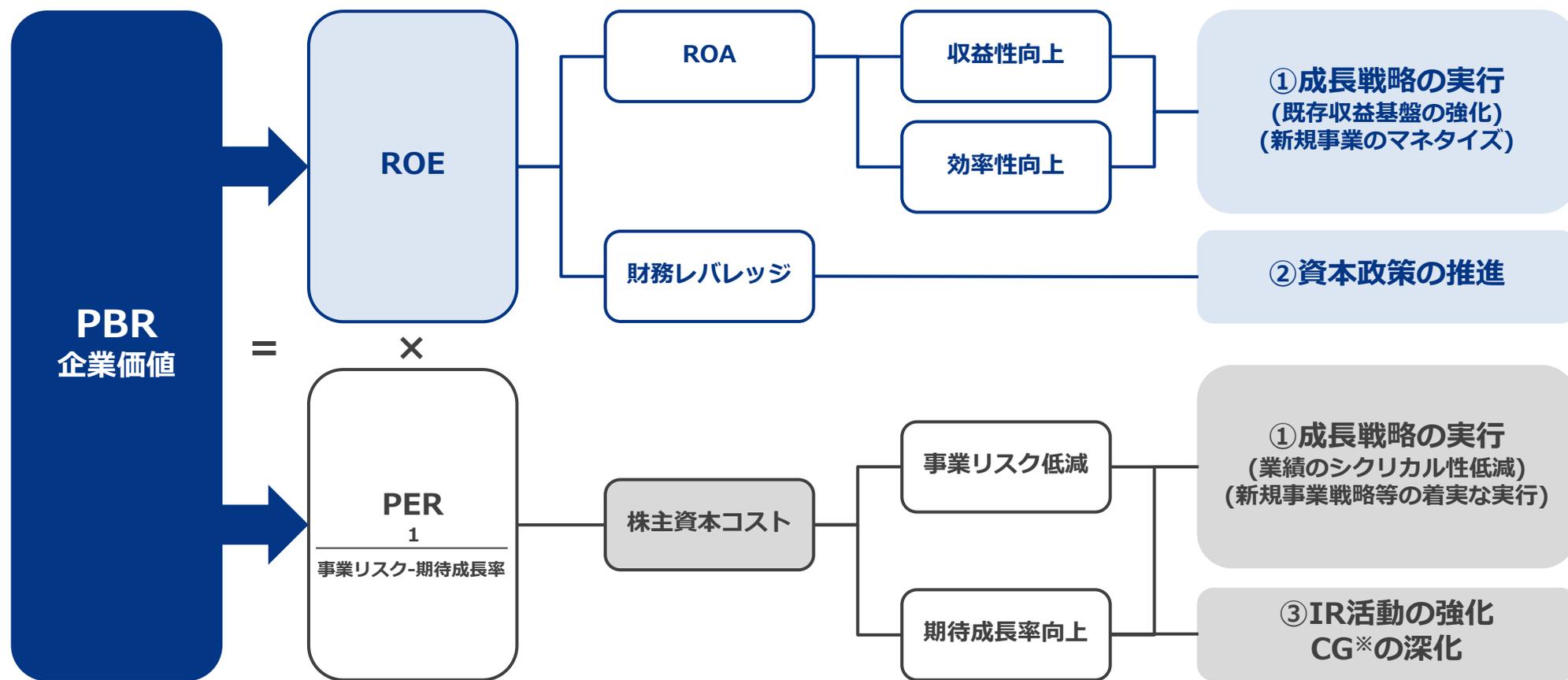


PER 5期推移



※JPX公表 2025年1月プライム市場「総合」単純平均PER

PBR改善に向け要因を分解し、具体的な対応方針を検討
 第2次中期経営計画で掲げた諸施策を推進し、ROE向上・資本コスト低減に取り組む



※コーポレート・ガバナンス

市場の持続的成長を見込むメディカル領域を軸とした成長戦略によりシクリカル性の緩和と収益性・効率性の向上を図る

工作機械事業

市場の成長期待が高く、当社工作機械の優位性が活かせる医療関連分野を重点領域として販売を強化

<工作機械事業戦略※>

- 医療向け製品ラインナップ(複雑加工ニーズを満たす製品)の拡充
- 医療向け製品生産工場(国内工場リニューアル第2期 牧之原工場)の増強
- 技術サポート拡充としてのソリューションセンター活用

メディカル事業

中長期的な企業価値向上の源泉となる新規事業の早期事業化・事業拡大に向けた戦略投資を推進

<新規事業開発戦略※>

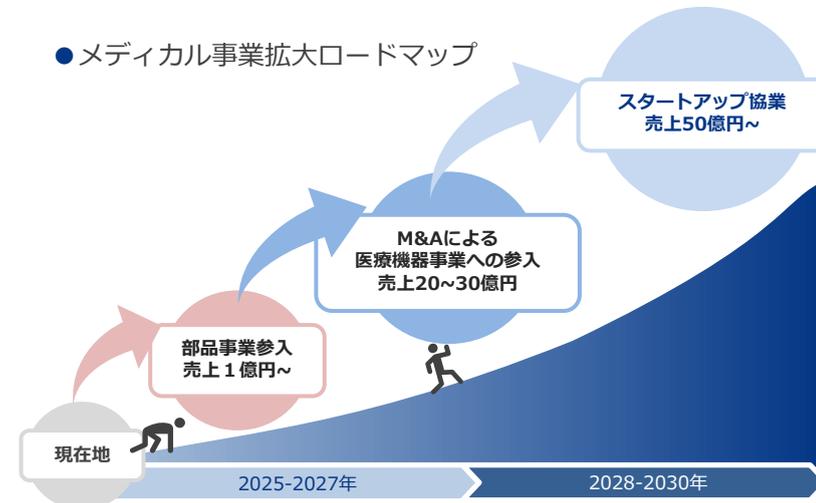
- 自社技術を活かした医療器用部品事業への早期かつ確実な参入
- スピーディな製造体制構築や販路開拓を目的としたM&Aの活用等による医療機器事業への参入
- 未来の価値の創造を目指したスタートアップへの投資と協業の推進

グローバル市場規模 CAGR比較
(スイス型CNC自動旋盤関連分野)



*出所「HORIZON Grand View Research」「Global Market Insights」のデータに基づき当社にて推計しております。

●メディカル事業拡大ロードマップ



※詳細については、2025年2月12日公表「第2次中期経営計画」工作機械事業：8-18頁 メディカル事業：21-22頁ご参照をお願いいたします。

株主還元は、適切な方針をもって機動的に推進する

株主還元方針の見直し

累進的な安定配当として1株当たり年間60円以上を継続し
自己株式の取得を含めた連結総還元性向50%以上を方針とする

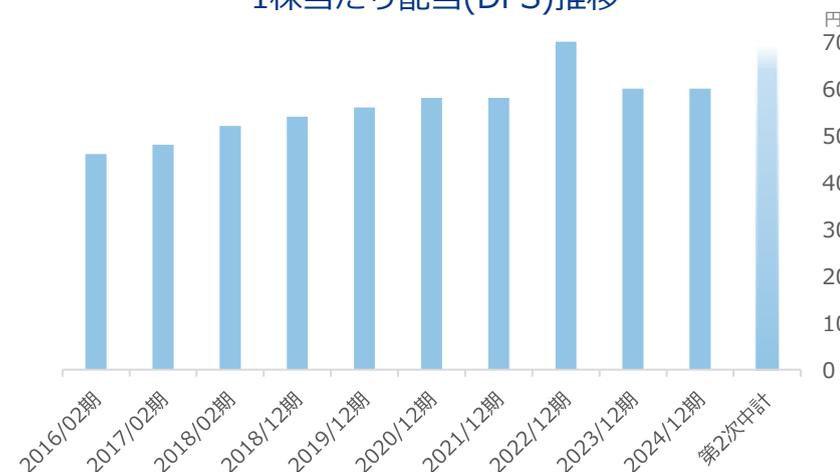


累進配当として1株当たり**年間70円以上**
連結総還元性向50%以上を基本方針とする

適切な資金調達

財務健全性を担保しつつ、方針に沿った還元を機動的に実施し、
成長投資等の資金使途に応じた適切な資金調達を図る

1株当たり配当(DPS)推移



※2022年12月期は特別配当を含みます。

③ IR活動の強化・CGの深化

積極的な資本市場との対話を推進し経営の意思決定に活かしつつ、コーポレート・ガバナンス強化により持続的な価値向上を図る

IR活動の強化

2024年の面談実施状況

- ・ 1 on 1 ミーティング **162回**
- ・ **四半期毎**の決算説明会の実施

※主な対象者：機関投資家、アナリスト

主な対応者

- ・ 代表取締役社長
- ・ 常務取締役コーポレート本部長
- ・ 執行役員コーポレート本部副本部長
兼同本部経理部長
- ・ 経営企画室長

主な対話テーマ・関心

- ・ 取り巻く事業環境の動き
- ・ 既存事業の今後の方向性
- ・ メディカル事業の考え方
- ・ 中期経営計画の進捗・方向性
- ・ PBR1倍割れに対する考え方
- ・ 株主還元に対する考え方

その他の取り組み

- ・ 投資家向け工場見学会の実施
- ・ 個人投資家向けイベント参加
- ・ 工作機械事業理解促進のための動画公開
- ・ FACT BOOKの公開 etc.

今後に向けて

- **投資家との面談・説明の拡充**
能動的な面談実施を進め、積極的な情報発信機会や海外投資家との面談機会の創出に向けた活動を推進
- **情報開示の拡充および高度化**
積極的な情報開示の拡充を継続し、情報の非対称性を解消
- **投資家意見の定期的なフィードバック**
投資家の意見をIR担当部門より取締役会等の意思決定機関に対して、適時にフィードバックし経営の意思決定に活用

▶ **さらなる対話の質向上のため、今後も積極的にIR活動を実施**

コーポレート・ガバナンスの深化

第2次中期経営期間にて各施策※を推進。

①取締役会の実効性のさらなる向上 ②健全なインセンティブとして機能する役員報酬制度への見直し

※詳細については、2025年2月12日公表「第2次中期経営計画」29頁ご参照をお願いいたします。